

ビデオ 通信

2016年
6月2日(木)
No.3986

60TH ANNIV.

SINCE 1956

月・木曜日発行
1ヶ月¥11,000(税別)
発行：飯澤剛 編集：齋藤浩一

ユニ通信社

〒106-0047
東京都港区南麻布 5-2-37
DEPECHE MODE 1F
TEL : 03-5422-7515
FAX : 03-5422-7516
E-mail : vt@uni-press.net

JPPA

JPPA AWARDS 2016 贈賞式と定時総会パーティ

「心」を引き出し、琴線に触れる作品に」経産大臣賞の濱田豊氏・渡辺真衣氏
IMAGICAは4年連続6回目、NHKは初のグランプリ受賞



JPPA AWARDS 2016 一般の部 全受賞者による記念撮影

一般社団法人日本ポストプロダクション協会（JPPA）主催の「JPPA AWARDS 2016」贈賞式および記念パーティが5月27日、東京・青山ダイヤモンドホールで開催された（速報は5月30日付で既報）。贈賞式では、『五島のトラさん～父親と家族の22年～』の音響技術で二度目の経済産業大臣賞を受賞した濱田豊氏と渡辺真衣氏（ともに㈱東京サウンド・プロダクション）が「心」をいかに引き出すかを念頭に置き、ナレーションや音楽、タイミングに注力し、琴線に触れるような作品に仕上げようと考えたと受賞の喜びを語った（写真下）。また、映像技術部門グランプリの『NHKスペシャル「生命大躍進」』生命大躍進 VFX チーム代表の松永孝治氏が「人生の中で何度できるか」という大きな仕事の1つになるので、何事にもチャレンジしていくことを心がけた、音響技術部門グランプリ『深夜喫茶スジガネーゼ # 41』を担当した小林由愛子氏（㈱IMAGICA）は「MA現場の楽しい空気が番組にそのまま伝われば」と述べた。また、平成28年度定時総会 記念パーティでは、JPPA会長の広岡淳利氏（㈱音響ハウス）が、総会およびJPPA AWARDS 2016の結果や三上信一氏（東京サウンド・プロダクション）の副会長就任などを報告したほか「JPPA 三大事業を中心に業界活性化に向けた活動を進める」と述べた。



濱田豊氏（左）と渡辺真衣氏



贈賞式の冒頭、アワード実行委員長の寺尾爾氏（株式会社エスシー・アライアンス メディアエンターテインメント社）が今年のアワードについて説明し、〈今年から学生部門に CG・アニメーション部門を新設したが、本数が少なく、アワード受賞に該当する作品がなかったため、他部門でゴールド賞・シルバー賞に届かなかった作品を奨励賞として表彰することにした。また、一般部門でも、審査員全員一致で該当無しとなったカテゴリーもあった。

それ以外は普段と全く同じ過程で選考されているので、是非、受賞者のみなさんは自信を持って欲しい。これからの活躍を期待している〉とコメントした。

まず、学生の一部 音響技術部門／映像技術部門のカテゴリー（ドラマ／ドキュメンタリー・その他）ごとにゴールド賞、シルバー賞、奨励賞が贈られ、受賞作品が上映されるとともに、この贈賞式では恒例となる、審査員が各作品に対する叱咤激励のコメントを述べた。

続いて、一般の一部 音響技術部門・映像技術部門の各カテゴリー（CM／ドラマ／ドキュメンタリー／情報番組・バラエティ・アニメ・その他放送番組／VP・MTV・Web 関連・その他／サウンドデザイン＝音響技術部門のみ／VFX カテゴリー＝映像技術部門のみ）のゴールド賞、シルバー賞および審査員特別賞の受賞作品が上映されるとともに、受賞者に表彰状や記念のトロフィーが贈られ、審査員が受賞者を祝福するとともに感想を述べ、受賞者が作品に込めた思いなどを語った。



経済産業大臣賞は審査員全員一致で決定

最高賞である経済産業大臣賞を、選考審査委員会 座長の阿部正吉氏（学識経験者）が発表し、経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課（メディア・コンテンツ課）課長の平井淳生氏から表彰状と記念トロフィーが手渡された。

経済産業大臣賞『五島のトラさん～父親と家族の22年～』を手がけた濱田豊氏（写真→）は〈この作品はテレビ長崎のディレクターが22年間撮り貯めてきたもの。地方局で取材・編集を行い、私たちにオファーがあった時は、本当に編集で上がってきた音しかない状態だった。機材も音質も異なり、編集も一連の流れでデコボコしていたが、私達は“心”をいかに引き出すかを念頭に置き、ナレーションや音楽、タイミングに注力し、琴線に触れるような作品に仕上げようと考えた〉



とコメントした。



阿部氏（←写真）は選考の経緯として〈経済産業大臣賞候補には映像技術から5作品、音響技術から3作品が審査対象となり、最終選考には5作品が残ったが、『五島のトラさん』には審査員の誰もが最初から高得点を付けていた。地方局の台所事情を想像しながら見ると、当時の収録技術の高さが光る作品で、違和感のない流れで最後まで引き込まれた。音響に

ついても、こだわりの時間をかけた高い整音技術力が全編に光る作品だった。音効技術では、さだまさし「案山子」に合わせたギターを選曲の良さなどが高く評価された。取材・編集・MA・音効などポストプロダクションのあらゆる才能における総合技術力が最も優れた作品として、審査員全員一致で大臣賞に推薦した」と説明した。

また、映像技術・音響技術各部門のグランプリについては、JPPA 会長の広岡淳利氏（㈱音響ハウス）が発表および贈賞を行った。

映像技術部門グランプリを受賞した『NHK スペシャル「生命大躍進」生命大躍進 VFX チームを代表して松永孝治氏（写真→）が NHK としても初めて 4K で大きな VFX を行った番組なので、大変なプレッシャーを抱えて挑んだ。「人生の中で何度できるか」という大きな仕事の 1 つになるので、何事にもチャレンジしていくことを心かけた。まだ、世界でもこれだけの量を手がけた番組や映画はないと思う。これからも最終的なクオリティを上げるため、VFX としてプリプロや企画の段階から積極的に関わっていく一方、常に最新の知識を学ぶために様々な現場に行きたくて勉強したい」とした。



また、音響技術部門グランプリ『深夜喫茶スジガネーゼ # 41』を手がけた小林由愛子氏（写真→）は「真夜中に放送している小さな番組だが、錚々たる番組やコンテンツが並ぶ中でこうした賞をいただき、本当に嬉しく思う。MA の中でもディレクター達と「こうやって見たら楽しい」「直太朗さんに本番でやってもらおう」「ナレーションの原稿なども渡さず、画面に出ているものを読んでもらえばいい」などと話し合い、本当に楽しかった。その場の空気が番組にそのまま表れ、伝わればいいなと思った」と受賞を喜んだ。



10 年以上になるという濱田豊氏 & 渡辺真衣氏のコンビ。2 度目の経済産業大臣賞となった『五島のトラさん』の音響技術について、渡辺氏（写真左）は「テーマとなったさだまさしさんの「案山子」の雰囲気やストーリーを大事にしたいと思いました。映像を見て「これは案山子の世界だ」と直感したので、そこに向かって選曲していき、音楽によってトラさんと家族の絆を表現したいと考えました」と濱田氏（写真右）は「今回も色々共感する部分があり、すごく良い作品に巡り会えたと思っています。さださんの歌詞がスッと入ってきた時に娘の顔に切り替わることで親子の関係を表現するなど、どのフレーズや歌詞が、どの画にどのタイミングではまるかについて熟考を重ねました。スナリ見えるかも知れませんが、涼しい顔をしながら水面下で一生懸命水をかいている白鳥のように、かなり四苦八苦しながら作業していました」と語る。また、若いスタッフ達に対しては「仕事を楽しむ」というスタンスが重要だと思っています。どんな仕事にも面白いところはあるし、それによって喜んでくれる人がいる。「どうしたらその人達が喜んでくれるか」という観点で作品に対峙することで、見る人の視線に触れる、良い作品ができるのではないかと考えています」（濱田氏）、ととにかくどんな作品でも真面目に取り組むことを心掛けています。被写体の人達が格好良く、魅力的に映る作品を作り、その人達にプレゼントする。そんな「おもてなし」の気持ちを忘れないようにしています（渡辺氏）とアドバイス。